

都市部と農山村部における生活環境要因が暮らしやすさに与える影響の比較分析

名城大学 古井 良典
名城大学 正会員 松本 幸正
名城大学 学生員 井上 佳和

1. はじめに

現在、都市部と農山村部では生活環境の整備水準に違いが現れており、住民の生活環境に対する意識に違いがあると考えられる。そのため、都市部と農山村部での住民意識の特性を的確に把握したうえで、その地域に適した生活環境の整備が必要である。

本研究では、愛知県豊田市、岡崎市、設楽町、額田町、下山村、作手村（以降この2町2村を農山村部とする）において住民意識調査を行い、その結果から、暮らしやすさにどのような生活環境要因が影響を与えるのかを明らかにする。そして、ニーズが充足している生活環境要因と改善が必要な生活環境要因を明らかにし、都市化の進んだ豊田市や岡崎市と農山村部で比較を行う。

2. 住民の意識構造の比較

住民意識調査の生活環境の総合評価を「暮らしやすさ」として外的基準に、表1に示す20の生活環境要因を説明変数にとり、数量化Ⅱ類を用いて分析を行った。分析に用いた住民意識調査のサンプル数は以降のようになっている。豊田市377、岡崎市345、農山村部440である。豊田市、岡崎市、農山村部の分析結果においてレンジが大きな上位5項目とサンプルスコアの平均、相関比を表2に示す。表より、「近所」、「治安」、「救急」などの生活環境要因のレンジが大きいことがわかる。

3. 暮らしやすさへの影響度分布図

数量化Ⅱ類の分析結果から暮らしやすさへの影響度を算出し、それと満足度を用いて暮らしやすさへの影響度分布図¹⁾を作成する。ただし、数量化Ⅱ類を行った結果に不合理な項目があるため、その項目を省いた後に数量化Ⅱ類を行った。

暮らしやすさへの影響度分布図を豊田市については図1に、岡崎市については図2に、農山村部については図3に示す。図より、豊田市、岡崎市といった都市部では、「救急」、「近所」、「買い物」、「空気」、「道路」において暮らしやすさへの影響度が高く、

表1 生活環境要因

	評価項目	略記
1	歩道の整備状況のよさ	歩道
2	道路の整備状況のよさ	道路
3	公園・広場の整備状況のよさ	公園
4	福祉施設・公民館の整備状況のよさ	福祉
5	下水処理の適切さ	下水
6	交通事故対策の適切さ	事故
7	緑・自然の豊かさ	自然
8	空気のきれいさ	空気
9	川・池のきれいさ	川池
10	騒音の少なさ	騒音
11	治安や風紀のよさ	治安
12	病院・診療所への行きやすさ	病院
13	総合病院への行きやすさ	医療
14	日用品の買い物施設への行きやすさ	買物
15	電車を利用しての出かけやすさ	電車
16	バスを利用しての出かけやすさ	バス
17	となり近所の人々との人間関係のよさ	近所
18	自治体の地震対策の適切さ	地震
19	自治体の水害対策の適切さ	水害
20	消防車・救急車の到着の早さ	救急

表2 各市町村における数量化Ⅱ類の分析結果

		豊田市		岡崎市		農山村部	
レンジ	1	近所	0.760	近所	0.866	救急	0.807
	2	治安	0.759	道路	0.535	治安	0.528
	3	救急	0.744	買物	0.515	近所	0.472
	4	買物	0.679	救急	0.425	自然	0.447
	5	歩道	0.585	水害	0.422	病院	0.439
サンプル平均	暮らしやすい		0.827		0.904		0.903
	どちら		-0.210		-0.416		-0.224
	暮らしにくい		-1.287		-1.212		-1.195
相関比			0.464**		0.579**		0.572**

**：1%有意

満足度が正の値を示している。このことから、これらの項目に対する満足感は、暮らしやすさに良い影響を与えていることがわかる。一方、「治安」は、暮らしやすさへの影響度が高く、満足度が負の値を示していることから、この項目に対する不満感は、暮らしやすさに悪い影響を与えている。そのため、「治安」を改善することで暮らしにくさの解消につながる事がわかる。

次に、農村部において「救急」、「近所」は、都市部と同様に、暮らしやすさへの影響度が高く、満足度が正の値を示している。このことから、これらの項目に対する満足感は、暮らしやすさに良い影響を

与えていることがわかる。一方、「買物」、「道路」は、都市部と同様に暮らしやすさへの影響度は高いが、満足度は負の値を示している。このことから、これらの項目に対する不満感は、暮らしやすさに悪い影響を与えている。すなわち、「買物」、「道路」を改善することで暮らしにくい評価の解消につながることをわかる。「空気」に着目すると、都市とは逆に暮らしやすさへの影響度の絶対値は小さく、満足度は正の値を示している。このことから、この項目に対する満足感は、暮らしやすさに良い影響も悪い影響も与えていないことがわかる。「治安」は、都市部と同様に暮らしやすさへの影響度は高いが、満足度は正の値を示している。この項目に対する満足感は、暮らしやすさに良い影響を与えていることがわかる。

このように、生活環境要因の項目は都市部と農山村部において、生活環境要因の暮らしやすさへ与える影響に違いがあることがわかる。

4. 生活環境の改善必要度

暮らしやすさへの影響度分布図より、都市部と農山村部の改善必要度を算出する。都市部と農山村部における生活環境要因の改善必要度の値が、0.20以上である項目を降順で図4に示す。

図より、豊田市、岡崎市といった都市部に比べ、農山村部は改善必要項目が多い。このことから、農山村部は都市部よりも、生活環境に対して早急な整備や改善が必要なのことがわかる。農山村部においては「下水」、「道路」といった社会基盤に関する項目などの改善が必要である。しかし、都市部においては社会基盤に関する項目に対して改善が必要とされていない。このことから、都市部と農山村部では、改善が必要な生活環境要因の種類に違いがあることがわかる。

5. おわりに

本研究では、豊田市、岡崎市、農山村部における住民意識調査の結果を用いて分析を行った。そして、どのような生活環境要因が暮らしやすさに影響を与えるのかを分析をした。さらに、生活環境要因の暮らしやすさへの影響度分布図から改善が必要な項目を明らかにした。その結果、豊田市、岡崎市といった都市部と農山村部において、地域による住民意識の違いが現れた。今後は、地域別の整備優先順位を

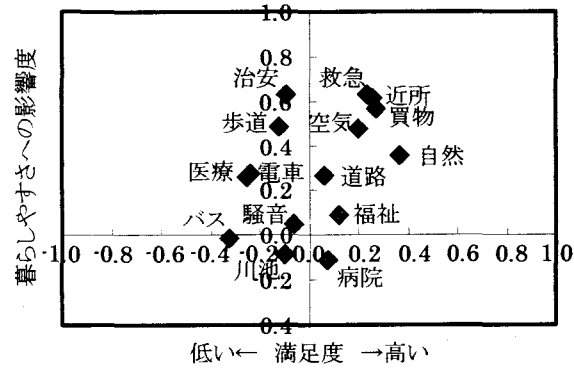


図1 豊田市暮らしやすさへの影響度分布図

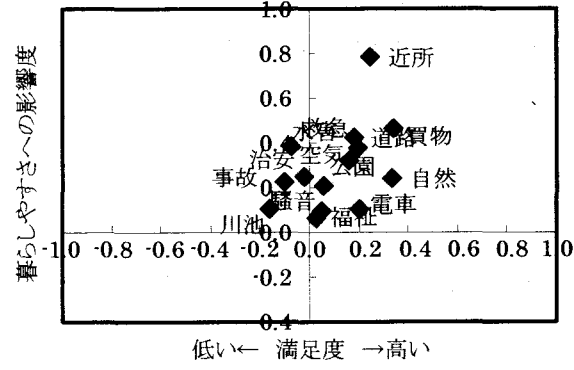


図2 岡崎市暮らしやすさへの影響度分布図

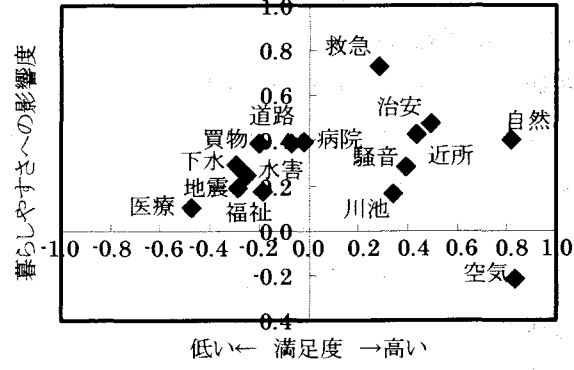


図3 農山村部暮らしやすさへの影響度分布図

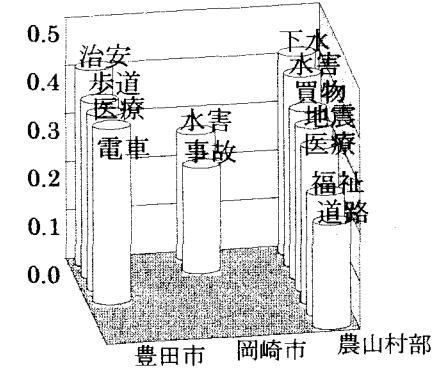


図4 各市町村における改善必要度

算出していく必要がある。

<参考文献>

1) 松本幸正, 伊東裕晃, 松井寛: 豊田市における住民意識調査を用いた生活環境に対する住民意識と改善要因の定量的分析, 第38回日本都市計画学会学術研究論文集, pp.73-78, 2003.